

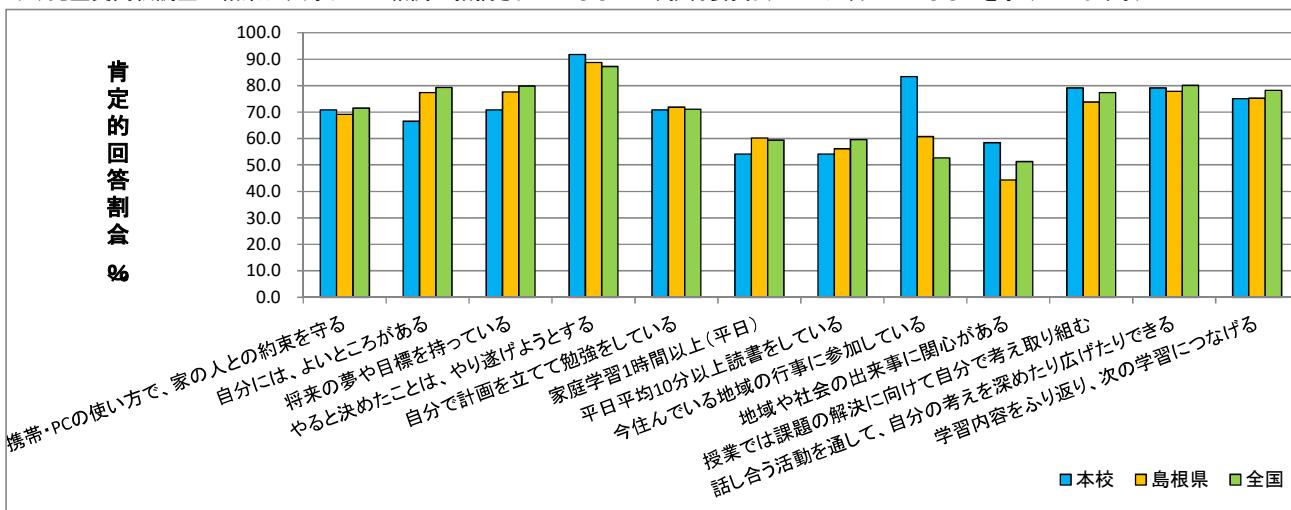
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果、●:課題)	対策(・)
国語	○作文・日記指導や書き取り会の継続的な取組によって、漢字や言葉に関する問題や書きに関する問題に関する正答率が高い。 ●互いの立場や意図を明確にしながら考えをまとめたり、文章全体の構成や書き表し方に着目して文章を整えたりする問題の正答率が低い。	・短い文章(新聞やニュース記事)を読んでまとめたり、話し合ったりする学習活動を朝学習や授業内に積極的に取り入れる。 ・国語の学習に限らず他教科においても積極的に資料を活用した学習活動を取り入れ、学年に応じて情報を活用したりまとめたりする力を育成したりする。
算数	○「数と計算」の領域の正答率が高く、朝学習でのミニプリントの継続的な取組の成果が見られる。 ●プログラミングに関する正答率が低い。 ●目的に応じてデータを活用したり、グラフから必要な情報を読み取ったりする問題の正答率が低い。	・月に1回行われる計算会を通して、基礎基本の習熟を図る。タブレットドリルなどを活用し、さかのぼって学習できる環境を整える。 ・プログラミングについては、隙間時間にWEBサイトで学習できるように整備をし、繰り返し学習できるようにする。 ・資料の活用については、他教科でも表やグラフを積極的に活用する。
理科	○結果から分かることを分析したり、解釈する問題については比較的正答率が高い。また、器具の正しい使い方に関する問題の正答率も高い。 ●問題を解決するための手順や実験方法を考える問題の正答率が低い。 ●自然事象・現象から考察する問題の正答率が低い。	・問題に対して教師から解決方法を伝えるのではなく、どのようにすれば解決できるかを考える場面を積極的に設定する。 ・観察においては、視点をもって観察するように声かけをしたり、他者の気づきの視点で分析したりすることによって、自分の考えを深めることができます。

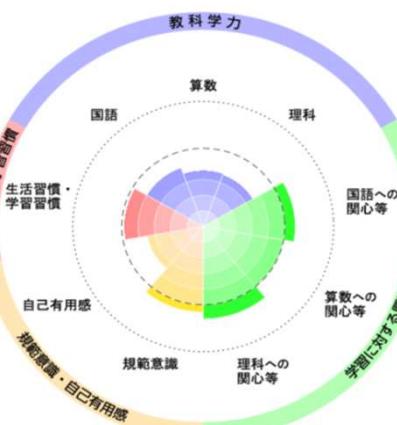
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果、●:課題)	対策(・)
質問紙	○地域の行事に参加する児童や地域や社会の出来事に関心のある児童の割合が高い。 ○自分の夢や目標をもち、やり遂げようという児童の割合が高い。 ●自己肯定感の低い児童が多い。 ●話し合う活動について、その意義やよさを理解している児童が少ない。	・お互いの頑張りやよさを認めたりする場を設定することで、自己肯定感を高めることができるようにする。また、行事などを通して達成感や満足感を味わうことができるようにする。 ・話し合うことで自分の意見が広がったり、考えが深まったりする経験を増やし、話し合うことのよさを実感できるようにする。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・ICTを活用して、お互いの情報をすぐに共有したり、自分の意見や考えを表出したりする場面を増やす。
・算数については、式だけでなく図や表、言葉を結び付けて説明する学習活動を継続的に行う。また、習熟度に応じて学習課題や学習進度を自己決定して学ぶ場面を適宜設定し、個に応じた学習を保証できるようにする。
・自主学習を活用して、自主学習の仕方やノートの使い方を継続的に指導し、家庭学習の内容の充実を図る。

【受検者数】
24名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。